

高退教通信

— 2015年 10月号(2015・10・9発行) —

鹿児島県高等学校退職教職員会

事務局 県高教組内

鹿児島市山下町4-18 (099-225-1414)

発行責任者 長井 玄龍

編集責任者 森 徹

東京 国会議事堂前からの 報告

戦争法は成立したと言うが……

副会長 小原 健

主要全国組織である日教組・自治労・全水道単産の退職者組織の集会「地公三单産退職者高齢者集会」に出席するために東京へ行った。時折しも9月14日。進行しつつある「安保関連法案（戦争法案）」に対していずれも危機感をみなぎらせていた。講演では、白井聰さん（京都精華大学講師）が「戦争ごっこ好きなバカな安倍が」と喝破していた。

私は、集会後大学時代の同級生五十嵐宏氏（川口市九条の会共同代表）に案内させて国会包囲行動に参加した。地下鉄を乗り継いで、17:30に到着。すでに歩道上には多くの人垣が出来上がり、車道との間に警察官が鉄パイプのバリケードを押さえてずらりと並んでいた。



19:15どこかでバリケードが「決壊」。川が堤防を崩すとく、歩道上に収めきれなくなった人間の数がバリケードを押しやり、たちまち人波で車道上は覆われていった。歩道上で抑え込めるとみていた警察は、「危険ですよ」「危



険ですから」と叫ぶのみ。バリケードはどんどん車道真ん中の緑地帯へとズラされた。8

月30日に引き続き、またもや議事堂正門に向かう大通りは人波に埋もれた。後で分かったことだが、45,000人。

私たち2人は人波を縫って前へ前へ。そして正門前に横付けした警察車両の見えるところまできた。シールズのメンバーがあのラップ調でマイクを持っていた。私も休みなく大声を出し続けた。

21:00全体集会はとっくに終わっていたが、先頭集団をはじめ、あちこちでシールズの若者を中心に数グループができていた。20:00で議事堂のライトアップは消えていたが、みんなはまだまだ「安倍は辞めろ」「戦争法案廃案」「強行採決反対」と声をあげていた。



民主主義ってなんだ！シールズが呼びかける。デモ隊が応える「これだ！」。初期のころはシールズの文句の繰り返しだった。民主主義ってなんだ「なんだ」これだ「これだ」と。今は違う。大衆は即座に答える「これだ！」。デモを繰り返



し、老若男女、子どもまで次第に増え、学んできた大衆が自信を持ち始めている。民主主義って形式的多数決ではない。自ら参加し意思を伝えようと声を出すことだと。今の自分たちの行動が民主主義をつくり育てていくんだと。「これだ」には腹の底からの実感がこもっていた。

15日には連合も現役組合員と連合傘下の退職者たちと合流して国会前で気勢を上げた。「全国高齢者集会」は昼から日比谷公会堂で開かれ、その後2,000人のデモ隊が東京のど真ん中を行進する姿は、やはり大きな勢力であると思われた。途中、参議院議員面会所前に立ち並ぶ民主・社民・共産党の議員に要望と激励のシュー

プレヒコールを行い、17:00から議事堂を取りまき集会をした。歩道には数百メートルおきにスピーカーが据えられ、中央舞台の音声がどこでも聞けるようになっている。

15日中央公聴会、16日地方公聴会（横浜）
17日地方公聴会の報告総括もなく委員会強行採決。

84年前1931年のこの日9月18日柳条湖から満州事変が始まり日中全面戦争・太平洋戦争への拡大につながったこの日。アメリカと一緒に世界中の戦争に参戦できる「戦争法」は可決成立させられた。

『戦争法案』強行成立に反対します

会長 長井 玄龍

今年は原発の再稼働反対、戦争法案反対のとりくみで、熱く多忙な夏になりました。

★ 戦争法案成立

安倍政権は、「戦争法案」を衆議院で7月16日、参議院で9月19日、自・公両党で強行採決、成立させました。

★ 抗議行動

憲法九条に違反し、再び戦争への道が開かれることになると、国民の多くが反対を唱えていたにもかかわらず、審議が進められ、反対行動は、全国的に広がり盛り上がりを見せました。

県内においても、大きな集会が鹿児島市で行われ、そのほかさまざまな集会や講演会が、地方でも多種多様に行われました。

反対集会が天文館公園で7月12日（日）2500人参加、8月23日（日）1500人参加で行われました。8月30日（日）は中央駅から電車道路沿いに「ストップ戦争法案」のプラカードを



示してアピール。9月13日（日）ライオンズ公園で集会2000人参加、9月16・17・18日鹿児島中央駅前広場で緊急抗議集会。9月18日（金）県護憲フォーラム主催「不戦を誓う講演会」。講師前田哲男さん。

このような大きな集会が、立て続けに複数回行われるのは、驚くべきことです。集会を開催するにあたっては、人集めも大きな心配事ですが、何よりその経費が一回の集会で約30万円掛かるとなれば躊躇します。それをものともせず実行しているのは、高退教員で、平和フォーラム事務局長野呂正和さんです。社民・共産の枠を超えて、様々な団体組織をまとめて集会を組織しています。経費は参加者のカンパで賄われ一回の集会で30万円を超える金額が集まります。平和憲法を守るという参加者の熱意を感じます。

★ 高退教のとりくみ

これらの集会に、多くの高退教員が参加しています。鹿児島市内はもちろん、遠くは出水から、近くは姶良から毎回30人前後の会員が高退教の旗のもとに集まっています。中央駅前の緊急集会でも何人もの会員の顔を見ました

★ 最後まであきらめない

8月30日は「まるやガーデン」前でビラを配りましたが、受け取ってくれる人は2割ぐらいでしょうか。アンケートの結果は6割以上が反対ですが、市井の人々の関心はまだしもとの感があります。

今後のとりくみは、憲法違反であるこの法律

は憲法98条に基づいて廃案にする、自・公国議員を落選させ、現在法案に反対している政黨の国会議員増やし廃案にする。あきらめた時が終わりですから、廃案にするまで声を上げ抗議行動を絶やさないことです。平和憲法を守り、守らせましょう。

「安保法制を斬る」

8. 15不戦を誓う日の集会

講師 柳澤 協二さん 於：よかセンター

鹿児島支部 納 雪子

日本の防衛政策は根本から覆ってしまう。憲法との矛盾は明らかと安保法制について問題点を解説して頂いた。

アメリカに付いて行くのを国策とし、国民の意思より対米公約が先行している。安倍首相は血の同盟と言うが私は基地の同盟だと思う。今日、自衛隊が認められるのは一人も殺さず、災害援助などを行ってきたからだ。国民を戦争の惨禍に引き込んではならない。

「子孫に謝罪の宿命を背負わせない」と言うなら、どうやれば国民レベルの和解ができるのか考えてほしい。中国脅威論のもと恐怖心を煽り立てるが、外交的に何かやったのか？尖閣や北方領土など島をめぐる争いを拡大してはならない。解決できないなら棚上げするしかない。

政治がナショナリズムをコントロールせず煽り立てるのが一番の危機で、そこに自衛隊が行くと戦争の口実を与えるだけだ。



この法案を阻止するために戦っていかなくてはならないが、成立しても悲観することはない。「国会承認」は60日ルールを適用されない。そのためにも次の国政選挙で国民の声を反映させよう。

「この日から始まり、またも目前に」

9. 18不戦を誓う日のつどい

講師 前田 哲男さん 於：県教育会館

鹿児島支部 図師 博隆



安倍政権が参議院本会議で19(木)未明、強行採決で「戦争法案」

をついに可決成立させてしまった。この集会は、その前夕、国会が与野党の激しい攻防のさなか、奇しくも9/18(金)県教育会館3階ホールで

催された。参加者は90人程。「安全保障問題」に関する社民党のブレーンでもあるジャーナリスト前田哲男さんの講演内容（一部）を報告します。

演題『この日から始まり、またも目前に…』 84年前の1931年9月18日、関東軍が仕組んだ柳条湖事件は起きた。中国側ゲリラによるテロと偽り、関東軍は「自衛権（満州居住邦人保護）」を名目に軍事行動を開始した。これが、

満州事変であり「アジア太平洋戦争（15年戦争）」の始まりであった。日本国民が事実を知ったのは、敗戦後、東京裁判（1946～48）を通してである。

同じように、今2015年9月18日、この日、集団的自衛権行使を容認する違憲の「戦争法」

「脱原発」～経過と今後の課題～

鹿児島支部 篠原 廣美

2015年7/7に燃料装填された川内原発1号機は、8/11の10：30、制御棒が抜かれ、私たちは再稼働を許してしまいました。9/10には営業運転開始。9/11に2号機燃料装填開始。10月中旬にも2号機再稼働予定です。

福島原発事故処理の目処が立たないにも拘わらず、事故の検証もされることのないまま、九電は私たちの故郷で川内原発の運転を始めました。原発の脅威に晒された経験からして、これはまさしく私たちの生活権に対する完全な冒涜です。水俣病公害を持ち出すまでもなく、我が国では事故が起こっても誰も責任を取らない。政府も、自治体も、東京電力も、それを認めて来た利権に群がる住民も。

8/29の朝日九州版34面に奇しくも4つの関連記事が隣り合いました。①「女子高生にコサイン教えて何になる」と総合教育会議で発言した伊藤祐一郎県知事、②「高線量ほどモミの木『変化』」という放医研の調査結果、③「浄化地下水放出 福島知事が容認」という汚染水処理の問題、④「川内原発訴訟189人追加提訴」の記事。

伊藤知事は、県議会の再稼働議決を根拠に、昨年11/7、川内原発1,2号機の再稼働に同意しました。避難計画も確立しないままの再稼働同意は、県民を守る立場の知事として極めて無責任な行為です。事故が起きた時、彼は果たして責任を取るでしょうか。否、です。「国が事故時の責任を約束した」、「規制委員会が安全を確認した」、「議会が承認した」と逃げるで

が、中国の脅威などを強調しながら、国民を守るとの名目で、またも前に迫りつつある。

「9.18」から始まった「負の歴史」を今日改めて心に刻む。「軍事信仰」から離れ、「東アジア共同体」構築にこそ、日本の未来はある。などの提言があった。

しょう。責任のたらい回しの構図が透けて見えます。その議員等を選んだのは県民ですから、大きな責任は県民にあります。

私たち県民はこれまで何回となく反対の集会・デモに取り組み、多い時で県内90の団体、7,500人が集まりました。しかし、九電は県民の声に全く耳を貸しませんでした。残念にも再稼働を許しましたが、今後の課題として大事なことは、これまで以上に反対の声を大きくすることだと思います。そのためには抗議集会もですが、川内原発差止訴訟の勝訴に向けた取り組みが重要と思います。原告団は、第7次追加提訴の189名を加え、総勢2,668名となりました。しかし、余りに少な過ぎます。高退教は現在800余名いらっしゃいますが、原告団に入っていたいているのは、その1割に満たないと思います。皆さん、どうか脱原発に力を貸して下さい。原告団に加わってください。原発の危険性は、皆様方充分ご承知のことと思います。次世代にこのような危険極まりないものを残さないことこそ、私たちの責任ではないでしょうか。

(最近目にした短歌から)

戦争になぜ反対しなかったそう賢しげに我
らは言ったはず 春原正彦

原子炉を背負いて登校する子らを迎うる教
諭も原子炉背負う 渡辺松男

原発に子らを就職させ来たる教員達のペン
だこを思ふ 梶原さい子

「向井たかまろ」を囲む高退教霧島市交流会 向井たかまろ県議は高退教で支える

姶良伊佐支部 小原 健

ついこの間のことのようですが、もう半年近くになります。元高教組委員長であった「向井尊磨」が「向井たかまろ」県議会議員となりました。高退教の姶良伊佐支部はもちろんですが、鹿児島支部はじめ県下の高退教と高教組現職の方々の力は大でした。

当選を果たしたとはいえ、得票結果は納得で



(高退教霧島市交流会 (8.28)

きるものではありません。私たちには、今後の県議としての彼の活動を支え、さらに2期目に向かって日常活動を支える責任も生じました。それは今すぐから始めねばなりません。

姶良伊佐支部の役員会や霧島市在住会員で話し合いながら、8月28日には「『向井たかまろ』さんを囲む高退教霧島市交流会」において、お互いの交流を深め、出席者全員（36名）で次のように確認し、退職者の元気度を示しました。

高退教姶良伊佐支部として、霧島・湧水地区を中心に、「向井たかまろ」の議員活動を支え、積極的に取り組むことを確認し、

- 議会報告の配布や地域に結成された後援会。

② 向井さんとの連絡を密にとり、活動を円滑に進めるために、世話役を置く。

世話役：後藤純一・末増省吾・町 昭彦・牧原敏美・濱田信之・小杉容健・栄良仁・小原 健・日高明仁

③ 支持者の名簿・地図の整理なども行う。

④ 交流会を年1回以上開催する。

地元と合わせて高退教皆さんのお力を

世話役 後藤純一（霧島市国分）

私は、選挙に関してはズブの素人ですが、その地域にいかに溶け込むかということではないかと思いま



す。私は国分に居を構えてから30年。しかし現職の20年間は職場と自宅の往復で、まったく地元の人と付き合いはありませんでした。退職後10年、公民館活動や健康のためのテニスで多くの人と触れ合い、交流でき、毎日楽しい日々を過ごしております。

今回の選挙では向井さんも地元とのつながりに懸命に努力されたようです。私個人も周りの人たちに「向井をぜひ」とお願いすることができました。地元に根を下ろし信頼を得ていかなければなりません。

向井さんも新人で大変でしょうが、私たちも周囲の人たちと交流を深め、「向井」を支えていきます。2期目以降に向けてねばり強く頑張りましょう。

「ただ今模様替え中！」

今年は涼しい9月となり、爽やかな秋晴れの下で体育祭が開催されました。生徒たちは走ったり跳んだり踊ったり、また役員としても大いに活躍し、楽しい充実した体育祭となりました。若者たちの躍動する姿は清々しく感動的です。学校で働くことは、未来のある若者と接することができる幸運があります。

さて、本校図書館は今模様替えの真最中です。古い資料が多いため雰囲気が暗く、書架の並びも悪いので、改善しようとしています。「学校図書館法」（昭和28年制定）には、学校図書館の大きな2つの目的が明示されています。一つは「教育課程の展開に寄与する」こと、そしてもう一つは「児童・生徒の健全な教養の育成」です。

その根底には図書館を使って情報を得、考え学習し発信することによって、自ら学び続ける市民を育てる役目があります。それがひいては民主主義を強くすることに繋がるのです。

しかし、本校の場合はまだまだそうした役割が果たせるほど活用されていません。そこでまず環境整備が重要と考え、取り組んでいます。



(写真①—書架整備前)

写真①は整備前の図書館後方の大型書架です。社会科学の図書があふれるように入っています。ここには文学全集を並べようと考えまし

出水高校分会 中島 洋子

た。書架の背面に白い紙を貼って本が引き立つようにし、最上段は落下防止のために本を除きました。また、日常的に利用させたい社会科学と自然科学の図書を館内前方に移動させました。さらに本の配置替えと同時に、古い本の選別も行い、結果的にかなりすっきり片付きました。



(写真②—書架整備後)

10年ほど前、ある研究会でアメリカの小学校図書館の様子をビデオで見たことがあります。子どもたちが地域の課題を学校図書館の資料を使って調べ、また関連施設や関係する大人たちにもインタビューをして、改善策を考え提案していました。政治参加への入り口となるこうした学習は日常的に行われているようです。

本県でも総合学習等で図書館を大いに活用している学校はいくつもあります。また前任校では、昨年度「アクティブラーニング」を試験的に実施した教員がいました。私も県立図書館から資料を借りて来て対応しました。生徒たちはとても生き生きと活発に学習しており、実践した教員も生徒の反応がよくて驚いていました。一斉講義型ではない、こうした学習形態で図書館が活用されると嬉しいと思います。

そんな授業が実現するために、使える図書館

に整備しておく必要があります。資料は新しく内容は信頼できるもので、在処がわかりやすい配置に。何よりも整理整頓され、明るく落ち着ける雰囲気で、学校司書が親切に対応すること

が一番大切なことです。

まだ課題は多いのですが、とりあえず一歩を踏み出したところです。乞うご期待！

○●○ 第8回 現・退交流囲碁大会 ○●○

－参加者数減少に負けず熱く静かな闘いが－

2015年8月22日（土）県教育会館

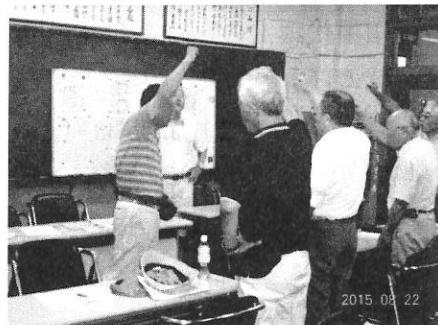


恒例の高退教主催「現・退交流囲碁大会」を8月22日、県教育会館で実施しました。

今年度の囲碁大会の特筆は、Aクラスで昨年度優勝を逸した宮千足先生が、見事トップに返り咲いたことです。またBクラスで篠崎大五郎先生が初優勝、さらにCクラスで内山博道先生

が初優勝を勝ち取ったことです。内山先生は「念願の九州大会にやつといける」と優勝の喜びを話しました。

この囲碁大会は鹿高教組の囲碁大会としてスタートし、25回続き、退職と共に現・退交流囲碁大会として引き継ぎましたが、現職の参加者がいなくななり、2013年度からは退職者のみの参加となりました。いつか現職者も参加することを期待して、鹿高教組と共に開催し8回目を迎えることになりました。



今回は昨年度と同数の19人の参加でした。往時に比べ細ってはきていますが、途切れることなく続いている。

なお、優勝者は福岡市で10月15日開催される九州ブロック大会に出場し、その大会での優勝者は東京での全国大会に出場します。鹿児島高退教のレベルは高く、これまで好成績を収めています。参加者の御健闘を期待しています。結果は以下の通りです。



クラス	段	優勝	準優勝	3位	参加者
A クラス	五段以上	宮 千足	小島 勉	児美川 学	6人
B クラス	四・三段	篠崎大五郎	福田 壮六	肝付 英雄	8人
C クラス	二段以下	内山 博道	長井 玄龍	藤園 昭一	5人

たかまろ通信①

「廿の子」にサイン・コサイン 許せない

安倍内閣は、2006年に教育基本法改正、昨年は地教行法改正を強行して、教育の中立性と継続性を確保するための教育委員会制度に、国と首長の介入を法制化した。改正法で設置された「県総合教育会議」での知事発言が見出しおとおり。

私は「許せない」と断じました。原発再稼働、「戦争法」成立、派遣労働法改正などで国民の生活が脅かされている。

結びに、9月25日朝日新聞に掲載されたマララさんのインタビュー記事、「**子供たちに銃をとらせたくないなら本を。世界の8日分の軍事費で世界中の初中等教育費の1年分になる**」を引用しました。「知事は最近太っている。体も発言もスマートにしなさい」はある自民議員の戒め。以上、本会議質問の報告とします。

向井たかまろ 090-5475-1728 maro.ssr-x@docomo.ne.jp mukaitakamaro@yahoo.co.jp



川崎寛治 没後十年「記念講演会」

◎川崎代議士の足跡を偲び、「平和憲法」下での日本の未来を模索します。

日時 2015年11月28日（土） 13:30～

場所 サンプラザ天文館(旧NCサンプラザ)

演題 「日本政治の来た道、これから」

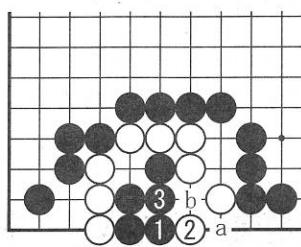
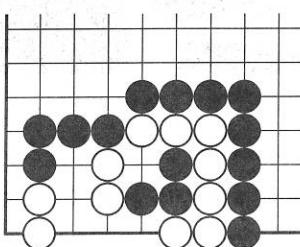
講師 早野 透（桜美林大学教授）

（元朝日新聞コラムニスト）

*どなたでも参加できます。無料です。

第5回 詰碁（黒先）

ヒント：白の全滅が正解です。



黒1のマガリが白の抵抗のを与えません。白2なら黒3で5目ナカテ。白2でaなら黒bで白死、白2なら黒3で花六。

今後の日程

10月12日（月） 川内原発2号機再稼働を許さない「10.12全国集会」

13:00～大集会・パレード（鹿児島中央駅東口広場）

10月20日（火）「10.21国際反戦デー」18:30～ 県教育会館

10月31日（土）～11月1日（日） 第66次県教研（鴨池中学校）

12月8日（火） 不戦を誓う日の集い

編集後記

川内原発の再稼働、「戦争法案」の強行採決など、民意を無視した安倍政権の暴走は強まるばかりです。しかし、シールズなど若者のデモ参加・取組には元気が出ます。今回は長井会長と篠原さんに、これらの取組の経過と課題を寄稿してもらいました。会長の「あきらめた時が終わりです」の言葉を、深く胸に刻みたいと思います。▶今号から要望の多かった、シリーズ「たかまろ通信」を始めました。引き続き向井県議を支えて、県政も変えていきましょう。▶字数を制限したにもかかわらず、快く原稿を寄せていただいた方々に感謝いたします。有難うございました。